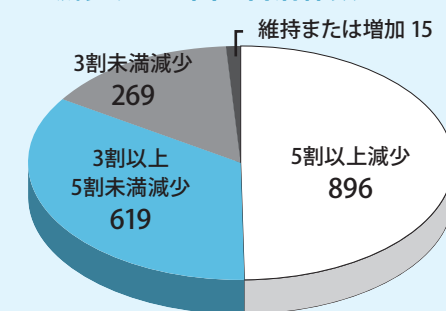
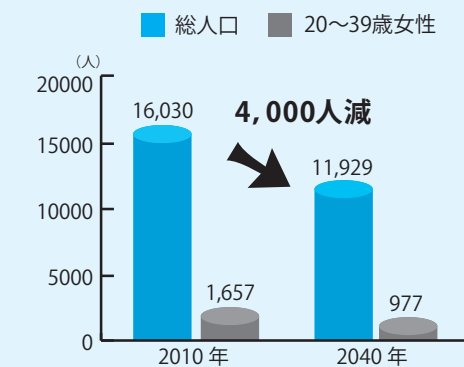


今年、芳賀町は町制施行60周年を迎えました。昭和25年国勢調査の結果では20,677人もの人口でしたが、平成22年の同調査では16,030人で、60年間で4,000人以上も減少しています。さらに厳しい将来予測が発表され、今後の町の行く末を真剣に考えていかなければならない現状と、町の取り組み状況をお知らせします。

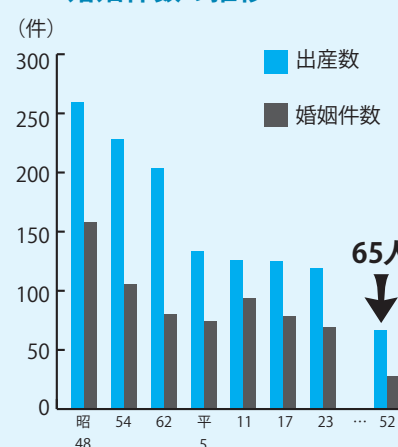
【グラフ1】
20歳から39歳の女性人口が減少する全国の自治体数



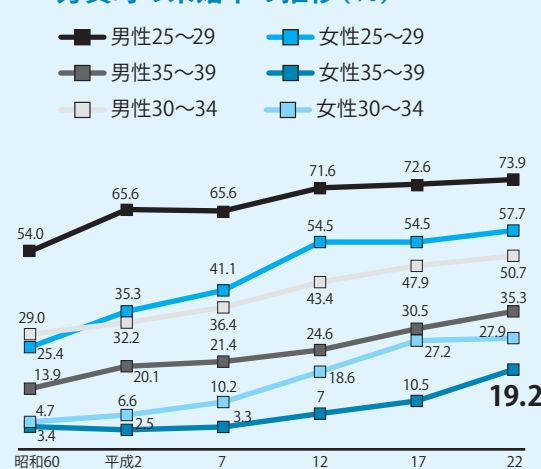
【グラフ2】
芳賀町の人口(日本創成会議推計)



【グラフ3】
芳賀町の出生数&婚姻件数の推移



【グラフ4】
芳賀町の未婚率の推移(%)



現状と将来予測

新聞やテレビ報道で話題になった「日本創成会議」が発表した「人口再生産力に着目した市町村別将来推計人口」では、人口移動が収束しない推計で、2040年に20歳から39歳までの若年女性人口が5割以下に減少する自治体「消滅可能性都市」は、全国自治体の約半数にのぼるという結果が出ました。

同会議が推計した2040年の芳賀町の人口は、2010年の16,030人に対して、実に4,101人減の11,929人となり、今から26年後には4,000人以上も人口が減ってしまう見込みです。特に20歳から39歳までの若年女性人口は、41パーセント減少し977人しかいなくなるという大変衝撃的な数値予想が示されました。【グラフ2】

この推計を基に、2040年に芳賀町の出生数がどうなるか予想してみました。すると、現在の合計特殊出生率1.45人のまま推移し、かつ現在の年間出生数が110人とすると、2040年には約65人と大幅に減少しています。学校を例にとると、1クラス35人で計算すると町全体で2クラスにしかありません。【グラフ3】また、現在の少子化の原因の一つとして、若年男女の未婚率の上昇があります。特に昭和60年以降は、各

迅速な有効策

少子化対策は迅速な総合的取り組みが必要です。町長を本部長に少子化対策検討委員会を組織して、具体的な対策について検討を進めています。



地域の多様な取り組み

町として可能かつ最大限の取り組みを展開していきます。各大字や行政区などでも、地域の実情を踏まえた多様な取り組みが大切です。皆様のご協力をお願いします。



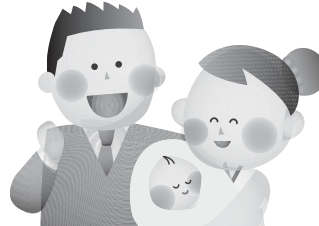
人口減少の共通認識

将来の深刻さを町民の皆さんにも把握していただき、行政だけでなく全国民・全町民の課題でもあるという認識と対策の必要性を理解していただくよう努めます。



若者が結婚し、子どもを産み育てられる対策

結婚・出産・子育てしやすい環境づくり、第2子や第3子以上の出産・子育てがしやすい環境づくりに取り組みます。



芳賀町の少子化対策

「活力ある発展が続くまち」を目指した少子化対策の取り組みを行うという基本方針を定め、検討を開始しました。少子化対策は、人口が増加し住みよいまちを作ることが理想です。町として人口を増やす方法として、新たな市街地拡大が必要となりますが、都市計画区域における土地利用の制約や全国的な少子高齢化による人口減少傾向の中で、国の認可を得ることは難しい状況です。そこで、町は上記のような対策を具体的にしながら、まちづくりを進めていきます。

芳賀町振興計画の第5次計画が来年度で終了するため、次期の長期振興計画策定を始めました。少子化対策を重要課題として、多くの町民の皆さんに住み続けたいと思っていただけるような「魅力あるまちづくり」を念頭に、計画を策定していきます。町民の皆さんからご意見、ご要望をお待ちしています。